

たか、し

<http://www.suginami-school.ed.jp/takaido4shou/>

杉並区立高井戸第四小学校

教育調査の結果について

副校長 米山 美智子

昨年末に実施した教育調査結果をお知らせいたします。集計結果につきましては裏面（中ページ）にまとめましたのでご覧ください。今年度も回答数 356（回収率 91.5%）と、多くの保護者の方々からご回答をいただきましたこと心より感謝申し上げます。

1 調査結果から成果と課題について

【成果】

調査回答の肯定的評価（とてもそう思う＋ややそう思う）を見ると、保護者の方々による評価では、「学校生活全般」が 93.3%と、コロナ禍においても昨年度（85.2%）より高い評価をいただきました。この他、昨年度と比べて肯定率が上がった項目は、「学級経営」92.1%、「学習成果の実感」93.8%、「道徳教育」89.3%、「体育・健康教育」93.0%、「地域とともにある学校」90.4%でした。学校独自の評価では、「環境の整備」89.3%、「組織運営」90.7%、「教員の意欲」94.1%、「学習評価」85.7%、「あいさつ・きまり」89.3%、「人間関係作り」87.9%、「食育指導」95.2%でした。今年度は、感染症拡大防止のために、行事の変更や中止、限られた学校公開など、学校の様子がなかなかお伝えしきれなかったにもかかわらず、子供たちのためにとご理解・ご協力いただいたことに感謝申し上げます。また、学校支援本部をはじめ、地域の方々にもいろいろなご協力をいただき、今年度の本校の教育活動を進めることができました。ありがとうございました。

5・6年の児童による調査では、学年によって評価が分かれました。区の調査ではいずれも昨年

度より肯定率がさがったものの、「個に応じた指導」を除くと、どの項目も7割以上の児童が肯定的に評価していました。また、学校独自の項目「教育方針」と「環境の整備」ではわずかながらも昨年度より肯定率が上がりました。子供たち自身が今の状況を踏まえて、どのように学校生活を送ることが大切なのか、制約のある生活の中でも自分たちができることを考え、主体的に学ぼうとしていることを表しているのではないかと考えます。

【課題】

保護者の方々による評価では、「一貫教育」「学校評価」の項目、学校独自評価「総合的な学習の時間」「いじめ・不登校指導」「生き方指導」が低い結果となりました。これらは、いずれも回答不能の割合が多くありました。今年度は、実施できなかった活動が多くあったり、学校の様子をお伝えしきれなかったりしたことも原因の一つかと考えます。また児童による評価では、5年生より6年生の肯定率が低い結果となりました。特に6年生の「個に応じた指導」が昨年度よりも25.8ポイントも低い結果となりました。学習内容が増え、難しくなっていく高学年においても、個に応じた指導や児童一人一人の思いを大切にした指導を充実させていきたいと考えます。

2 来年度の高四小の教育について

教育調査に寄せられたご意見も参考に、学校運営協議会でもご意見をいただき、本校の教育目標の育成にさらに取り組んでまいります。今年度も学校の教育活動に温かいご支援ご協力をいただきまして誠にありがとうございました。

1 教育委員会による教育調査結果（全体）

■保護者・児童：肯定率（%）（下段は令和元年度）

	領域・観点	保護者		児童	
		全	5年	6年	全
1	学校生活全般	93.3 85.2			
2	一貫教育	54.5 78.3			
3	学校評価	63.2 77.5			
4	学級経営	92.1 83.8	98.1 84.4	72.9 94.0	86.1 89.5
5	個に応じた 指導		62.3 66.7	54.2 80.0	58.4 73.7
6	学習成果の 実感	93.8 89.3	81.1 80.4	72.9 88.0	77.2 84.4
7	学習評価	78.9 85.2	84.9 87.0	75.0 91.8	80.2 89.5
8	教材教具・ICT	80.1 89.0	90.6 88.6	87.5 100	89.1 94.7
9	系統的・ 連続的指導		94.3 80.4	66.7 92.2	81.2 86.6
10	道徳教育	89.3 86.1	75.0 88.9	68.8 86.3	72.0 87.5
11	体育・ 健康教育	93.0 92.3	88.7 89.1	62.5 88.0	76.2 88.5
12	特別支援教育	75.8 76.7			
13	地域と共に ある学校	90.4 88.1	84.9 93.3	70.8 98.0	78.2 95.7
	計	82.2 84.9	84.5 84.3	70.1 90.9	77.6 87.8

3 特別支援教室（たかし教室・言葉の教室）

■教員・保護者：肯定率（%）

	評価の観点	教員	保護者
1	個に応じた指導	100.0	95.0
2	学習の成果		
3	学習評価	87.5	95.0
4	系統的・連続的指導	62.5	

※児童（5・6年）は調査人数が少ないため割愛させていただきます。

2 学校による独自の評価 学校経営・その他

■児童は5・6年が回答 肯定率（%）（下段は令和元年度）

	評価の観点	肯定率（%）		
		教員	保護者	児童
1	教育方針	100.0 88.2	81.2 84.2	85.1 80.2
2	環境の整備	95.5 82.4	89.3 85.8	85.1 79.4
3	組織運営	86.4 64.7	90.7 85.3	
4	教員の意欲	100.0 94.1	94.1 89.0	
5	施設・設備の安全管理	90.9 100	90.7 91.1	
6	授業の工夫	90.9 93.8	86.2 87.5	
7	学習評価	77.3 81.3	85.7 81.3	78.2 91.3
8	道徳指導	86.4 93.8	79.2 80.7	81.2 86.7
9	総合的な学習の時間	77.3 92.3	61.7 74.4	80.2 87.8
10	行事参加			87.1 91.5
11	あいさつ・きまり	95.5 76.5	89.3 84.0	87.1 93.8
12	いじめ・不登校指導	90.9 88.2	50.8 70.9	69.3 77.2
13	生き方指導	81.8 80.0	61.5 66.9	73.3 80.0
14	健康・安全指導	90.9 100	86.5 88.8	78.2 90.3
15	人間関係づくり	95.5 94.1	87.9 84.3	
16	学校取り組み発信	90.9 87.5	95.2 89.9	
17	言語活動・図書指導	77.3 88.2	83.4 85.9	57.4 70.3
18	メール配信		93.3 96.5	
19	食育指導	63.6 68.8	95.2 93.7	57.7 71.0
20	のびのび体操	50.0 35.3	92.7 96.2	64.4 71.9

4 お寄せいただいたご意見より（一部）

○学校の ICT 教育は、機器を利用するという事に止まっているように感じます。もっと先生方の負担を減らせるような活用の仕方、子供たちがより学ぶことに意欲になる活用の仕方が必要なのではないかと思います。せっかく、一人一台タブレットを持っているという環境ができたので、ぜひこの環境を活かした取組を日頃から行っていければよいと考えます。

（学校より）

教室にある電子黒板機能付きプロジェクターを日常的に活用し、デジタル教科書を映すだけでなく、活動の様子や児童のノートなどをすぐに画像に映して全体で共有できるようにしています。また、今年度は感染症対策として全校で集まることができないので、行事や集会活動などは、Teams を活用してライブ放送をしてきました。いよいよ一人1台のタブレット PC が配備されます。漢字や計算など基礎的なドリル学習などのアプリを活用し自学自習できるようにしたり、友達との意見交流の手段にタブレット PC を活用したりと、学年に応じた活用の仕方を学校全体で共有できるように、ICT 活用の指導計画の整備と情報モラル教育を推進していきます。

○土曜授業の参観は、今の形式の方が見どころが凝縮されてよいと思いました。心配なことがあったときには、いつでものぞける体制はある方がよいと思いますが、毎回全体に公開しなくてもよいのかもしれませんが。

カリキュラム上、仕方がないのかもしれませんが、土曜授業が多く、週末に疲れがとり切れないことがあります。

（学校より）

今年度は、4、5月の臨時休業により2か月分の授業時数が不足してしまったので、その分の確保のために、土曜授業を月2回程度4時間授業としてきました。また、公開も感染症拡大防止対策として、学年ごとに分けて限られた時間でしか実施できませんでした。次年度は、土曜授業は今まで通り月1回を予定しております。また、授業参観については感染症の状況を踏まえて計画をしていきたいと考えております。

○感染症対策に関し、柔軟性、スピード性が不足しています。COVID-19 だけでなく、従来からある感染症対応においても、速やかな情報共有がされていないと感じます。

（学校より）

安全管理については校長を中心に、副校長、各主任が危機意識をもち、全教職員が協力して取り組んでいます。特に今年度は、感染症対策について管理職、主幹、養護教諭を中心に感染症対策の情報収集と対応について、その都度検討し、全職員で対応にあたってきました。教育活動の中止や急な変更が多数あったことについては、保護者の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。今後もホームページやメール配信を活用して、学校からの情報をできるだけ発信していきたいと思っております。

○コロナの影響で授業の参観ができないので、学校の様子がわかるようクラスだよりを発行いただくとか、授業の様子等のリアル配信を試みる、等の方策を望みます。

（学校より）

先にも述べた通り、保護者の方にご来校いただき、児童の学習の様子を見ていただく機会がほとんどとれませんでした。杉並区の規定で個人情報保護の観点からまだ、授業の様子をオンラインで配信することはできませんが、今後、学校や学級の様子をお伝えする方法を検討し、できるだけ様々な情報発信ができるように努めていきたいと思っております。



5 学校評価委員会の報告

去る2月9日(火)に学校評価委員会を開催しました。始めに学校より、教育調査の結果について報告を行った後、評価委員の皆様より意見と評価をいただきました。以下、当日出されました意見の主な内容について報告いたします。

- (1) 学校独自の調査の中で、「食育指導」に関する項目が保護者の肯定率は95%と高いのに、教員と児童の肯定率が低い結果になっているのはどうしてか。保護者は子供たちが給食について満足しているところから高いのか。

⇒学校：保護者への調査は、「子供の『食』と生活について、『給食だより』等で情報を受けている」という質問であり、児童へは「先生は、食べ物(栄養)と生活のかかわりについて、教えてくれる」、教員へは「『食』に関する指導を推進している」となっている。今年度は、家庭科の調理実習を含め、給食指導についても感染症拡大防止対策のために、様々な制限があった。生活科での食に関する活動や、総合的な学習の時間での岩手県江刺JAとの交流による体験活動も実施できなかったことも児童、教員共に肯定率が低くなったことと考える。今後、今の状況下でもできる食育指導のあり方を探っていき、実践していきたい。

- (2) 「いじめ・不登校指導」について、教員(90.9%)に比べ、保護者(50.8%)、児童(69.3%)と低い結果となっているが、これは児童の学級経営(86.1%)を見ると高めなので、少し矛盾するところもある。いじめや不登校については、情報発信の仕方も個人情報保護の観点から難しい部分もあるが、何かあればいつでも保護者と協力できる体制が取れるようにするとよい。

⇒学校：「いじめ」の指導については、毎学期いじめのアンケートを実施して早期発見に努めたり、日々の児童の変化を見逃さないように生活指導夕会等で情報共有したりしながら組織的に対応できるよう、今後も努めていきたい。

- (3) 「一貫教育」について、小中の一貫教育については、教育活動の内容について連携していくというのであればよいが、単に慣れている友達と中学に、というのであればどうなのだろうか。小学校から中学校、中学校から高校へと小さいうちから少しずつショック(壁)があってもよいと思う。ショックを乗り越えて強い大人になってほしいと考える。

- (4) 「小中一貫」を進めるのであれば、学区関係なく希望した学校に進学できるようにしてほしい。高四小と連携校の神明中学校に進学を希望していても入学できないこともある。

⇒学校：今年度は、連携校の神明中学校との児童・生徒の直接の交流活動はコロナ禍で実施できなかった。2月の土曜授業での中学生との「遊びのフェスタ」も残念ながら中止となってしまった。中学校からは、部活動紹介DVDや資料を届けていただき、それらを活用して中学校生活について子供たちに興味をもってもらった。中学校と小学校の教員同士の研修会は実施できたので、今後も情報共有しながら連携していきたい。また、希望する中学校に進学できるよう区にも働きかけていきたい。

- (5) 神明中学校の部活紹介DVDに、高四小の卒業生も出ていて、活躍する様子が伝わったので、今後も卒業生の様子などが小学校にも紹介されるとよい。

- (6) 高四小の子供たちは、通学路での歩き方がよい。歩道があるところを歩き、道に広がって歩くこともあまりない。高四の保護者や地域の方は、わが子でなくとも叱って指導しているから、約束事をよく守っている。また、交通指導員さんと挨拶をしたり、気軽に話をしたりできる子供たち。地域の安全支援隊の方々に対しても先生と思って子供たちが接しているところがよい。

- (7) 高四小では、4年生になるまでは子供だけで自転車に乗って出かけないという約束になっているが、よく守られている。3年生の終わりに自転車教室で自転車の正しい乗り方などを学習すると乗れるようになり、子供たちもよく分かっている。このように良いことは今後も引き継いでいきたい。学校も教職員の異動があると思うが、学校も家庭も地域もよい伝統やカルチャーは引き継いでいけるとよい。